



新春対談

きょうと教組青年部 今年は何...



立高校では今年度からICカードによる勤務時間管理が始まっています。

小鍛冶一府
の広がり、財産ですね。そしてその広がり、子どもたちとの関わりにも返って行くことをわたし自身実感してきました。

青年部の活動への懸念

小鍛冶一府
きょうと教組の組合員が衛生委員会のメンバーとなり、超勤状態の改善に向けての取り組みを進めることも、「組合」のしていることを職場のみんなに見せています。関心を寄せている様子はあるかと思いますが...

松川一「集まる」場を企画したい。気楽に、楽しく集まれることで、相談できる窓口になれたらいいなと思っています。自分自身、組合に入って活動に参加することで「ええとこやなあ。居心地ええなあ」と実感しています。得るものもたくさんありました。何より、悩みを抱えている時には頼れる、ちょっとやそつとではくずれない皆です。集まってくる人によって、よりどころになるはずですよ。周りの人に誘いの声をかけ、それを一人でも多くの人に感じてほしい。一人で悩みを抱えている人は周りにいます。でも「組合」を知らないのです。

自分にとって組合は...

江藤一「だれかが言わなければ見過ごされてしまふ...」といった場面、一人で発言できるのは、正しい情報や判断が組合から得ることができ、それが「辞書」になっているからです。困ったとき、自分が間違ったとき、どうすればいいかわからなくなつたとき、支援してくれると思える組合は、自分の支えになっています。

江藤一「新採の頃は、組合のこともよく分からない状態でした。でも、青年部の集まりでは、同世代で素直な気持ちで悩みや考えを話し合うことができ、それがいろいろな活動へと少しずつつながり広がっていききました。また、自分の課題を見つめ直すきっかけにもなりました。話せる場があったことが自分にとって大きかったと今でも思っています。青年部は必要です。自分たちの実態を出し合い、働き方や意識などの課題に気づき、そこからどんな学習をしたいかとか、どんな要求が必要かとか、これからの行動を考えていく。そういう、組合活動の原点を学ぶ場が青年部だと思っています。

職場で感じる



江藤一勤務時間に対する意識が管理職にもない状況です。例えば、休憩時間として設定されている時間に、会議が入ったりすることもあります。そういったことに対して意見を言う人が自分以外にはいない中、職場で「クレーマー」だと言われてしまいました。



松川一学校の実情が十分把握できていない転任一年目の者が全体を把握して、動かなければならぬ分掌を担当することがあります。一人ひとりが責任を持って、また、協力し合って動ける体制、配慮が必要だと考えています。超勤対策については、「早く帰らまじょう」の声かけ

ティーンになれたらいいなと思っています。自分の周りにも職場での悩みを抱えている人がいますが、「こんな集まりがあるので参加しませんか」と声をかけていきたいと考えています。悩みを話せる場になるはずですから。そんな場が、そしてつながりが必要だと感じています。

今年の抱負は

松川一「まず、青年部みんなが楽しく集まれる場を企画します。集まる中で、思いを出し合いながらきょうと教組の青年部の活動を作っていくと思っています。気楽に集まれ、そしてそれが日々の支柱になる、そんな青年部をめざしたいと考えています。」

江藤一「自分自身の生活、職場、組合。その中で肩に力を入れずに取り組むことをめざしています。」そんなに頑張らなくてもなんとかなる」というメッセージを周りの人に届けたいと思っていますので、頑張るべきでないことを前提に、でも、視野は狭めず、広く周りに目を向け、必要ならば勉強もしながらちょっとでもできることに取り組めます。が、やはり一番に優先させるのは、青年部を支える活動です。

きょうと教組は学校現場で働く様々な職種の教職員が集う組合です。それぞれの立場で、日々教育に関わっていますが、それぞれの職に関わっている課題や、個人の生活がかかっている問題もあります。それらをできる限り支えていくのがきょうと教組の重要な役割です。そのためには組織拡大が不可欠です。支えること、広めることが組合活動の両輪になります。青年層の中心となり、今、組合活動に取り組んでいるお二人の考えている

